

令和2年度

大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・

大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業

報告書

令和3年3月

学校法人 濱名山手学院

(関西国際大学)

目次

第1章. 事業概要.....	3
1. 事業趣旨・目的	3
2. 事業内容	3
第2章. 今年度事業の取り組み.....	4
1. 大学スポーツ・アドミニストレーターの配置	4
(1) 配置に向けた取り組み	4
(2) 学内のスポーツ分野の統括業務を担う組織やその役割	5
(3) 大学スポーツ・アドミニストレーターの資質・役割・業務	6
2. コンソーシアムの形成	7
(1) コンソーシアムの目的や取り組みの方向性の整理	7
(2) コンソーシアム構成員やその役割	10
(3) 第1回コンソーシアム会議の開催概要	11
3. 地域活性化策の検討	12
(1) 防災資源を活かした地域防災力の向上	14
(2) スポーツによる地域の健康増進	19
(3) 地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致	23
(4) 三木市の資源を活かした観光振興	28
第3章. 事業の効果及び評価.....	32
1. 評価の方法	32
2. 評価結果	33
第4章. 次年度の取り組み想定.....	34
1. 防災資源を活かした地域防災力の向上	34
2. スポーツによる地域の健康増進	34
3. 地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致	34
4. 三木市の資源を活かした観光振興	35

第1章. 事業概要

1. 事業趣旨・目的

本支援事業の目的は『我が国の大学スポーツの持つ潜在力（人材輩出、経済活性化、地域貢献等）を活かして、地域における経済・社会の活性化、スポーツを通じた健康増進、スポーツのための環境整備等に貢献するとともに、それらの取組を収益事業化・自走化することで大学の財政基盤の安定化を図る』である。

上記を踏まえ、本学における事業の趣旨・目的を以下に設定する

- ・『スポーツと防災、安全安心教育を通じて、SDGs と地域活性化を目指す』

※そのために本事業の推進と、更に地域の関係機関と協力し「地域スポーツコミッション設立」を本学が三木市などに働きかけ実現させることも視野に入れて活動する

2. 事業内容

事業の趣旨・目的を達成するための実施事項を以下に設定した。

- ・大学スポーツアドミニストレーターの設置
- ・コンソーシアムの形成
- ・地域活性化策の検討

設定した実施事項ごとの今後の取り組み想定を以下に掲載する。

図表 1 実施事項と今後の取り組み

実施事項	今後の取り組み
大学スポーツアドミニストレーターの設置	✓ スポーツアドミニストレーター設置及びサポート体制の確立 ⇒検討等の状況については「2章の1」に掲載
コンソーシアムの形成	✓ 既存連携先を中心とした初期コンソーシアムの形成 ※次年度以降は地域活性化施策を踏まえたコンソーシアムの拡大などを想定 ⇒検討等の状況については「2章の2」に掲載
地域活性化策の検討	✓ 学内スポーツ、防災、地域医療リソースの体系化 ✓ 地域活性化策に関する調査・検討 ✓ 今後の方向性に関するコンソーシアム内の合意形成とスポーツコミッション組成に向けた打診開始 ✓ WMG や CCRC との連携企画策定と協業開始 ※次年度以降は防災スポーツ・スポーツ合宿トライアル実施に向けての各種調査やその取り組み拡大などを想定 ※WMG：ワールドマスターゲームズ 2021 ※CCRC:Continuing Care Retirement Community ⇒検討等の状況については「2章の3」に掲載

第2章. 今年度事業の取り組み

1. 大学スポーツ・アドミニストレーターの配置

大学スポーツの持つ潜在力を活かし、地域の活性化等に継続的に取り組むため、教育・研究・課外活動及び社会貢献を含め学内のスポーツ活動に一定の知識・経験を有する者を「大学スポーツ・アドミニストレーター」として配置することとする。

ここでは、大学スポーツ・アドミニストレーターの配置に向けた取り組み経緯、学内のスポーツ分野の統括業務を担う組織やその役割、大学スポーツ・アドミニストレーターの資質・役割・業務について記載する。

(1) 配置に向けた取り組み

大学スポーツ・アドミニストレーターの配置に向けた本学における取り組みを以下に掲載する。

図表 2 大学 SA 配置に向けた取り組み

実施時期	取組の概要
R2 年 3 月	配置に向けて学内調整
R2 年 4 月 1 日	企画提案の採択を条件に、山野司氏に SA を内示
R2 年 8 月	組織規程変更の協議
R2 年 9 月 1 日	大学のスポーツ分野を統括する組織として「スポーツ振興・地域活性化推進センター」を設置
R2 年 9 月 1 日	上村和美人間科学部長をセンター長に任命

(2) 学内のスポーツ分野の統括業務を担う組織やその役割

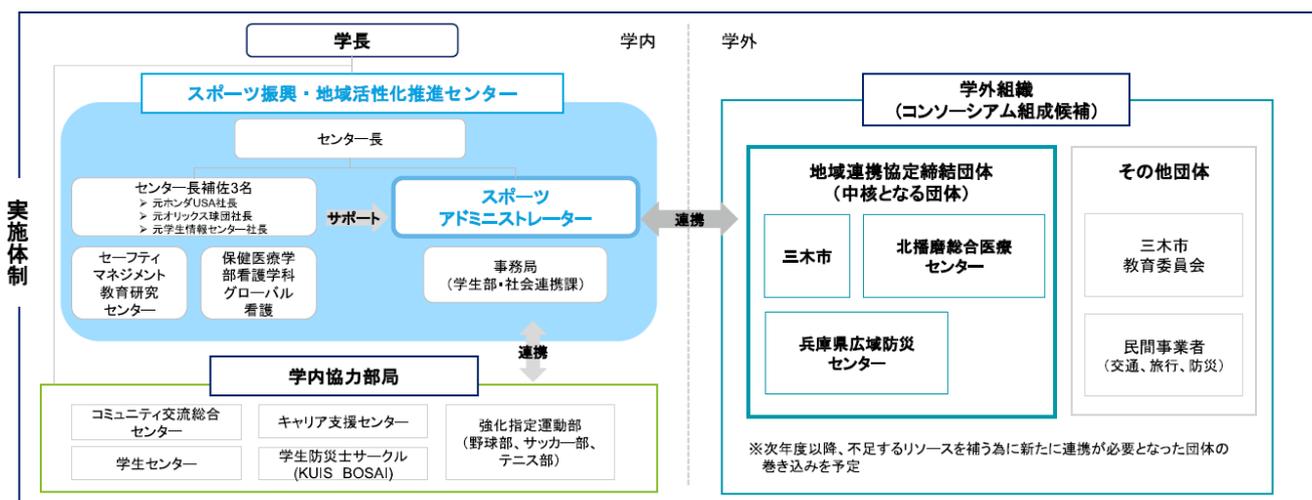
令和2年9月1日付で、「学校法人濱名山手学院 組織規程」において、大学のスポーツ分野を統括する組織として「スポーツ振興・地域活性化推進センター」を設置した。スポーツ振興・地域活性化推進センターは、組織規程第3条(1)に、研究推進機構の1つとして位置付けている。

また、組織規程の第26条の3において、「1 スポーツ振興・地域活性化推進センターにスポーツ振興・地域活性化推進センター長を置く。2 スポーツ振興・地域活性化推進センター長は、学長及び担当副学長の命により、スポーツ振興・地域活性化推進センターに関する業務を総括し、その執行について所属職員を指導する。」と組織と役割を定めており、スポーツ分野の統括業務を担うこととしている。

大学スポーツ・アドミニストレーターは、「スポーツ振興・地域活性化推進センター」に配置した。

以下に組織図の概要を掲載し、図表3に学内説明で提出した組織図を参考として掲載する。

図表 3 統括組織の設置及びSAの設置に関する組織図概要



(3) 大学スポーツ・アドミニストレーターの資質・役割・業務

前述の通り、大学スポーツアドミニストレーターを「スポーツ振興・地域活性化推進センター」に配置している。

ここでは、大学スポーツ・アドミニストレーターに雇用した者に求めた資質・能力・役割に加え、具体的に行った業務を掲載する。

図表 4 スポーツアドミニストレーター配置内容

項目	内容
氏名	山野 司（本学での役職：野球部副部長兼コーチ）
資質・能力	強化指定運動部中最多の部員数を誇る野球部員からの人望は厚く、三木市内有志による野球部を応援する会、リトルリーグの指導者等との長年の交流により地域での知名度が高く、地域貢献が求められる本学スポーツ事業の中核として最適である。
役割	学内外の組織と連携しながら、本学のスポーツ分野の統括業務を中心となって推進する。また、コンソーシアムの形成・運営の中心となり、SDGs・スポーツ・防災を通じた地域活性化施策を企画・推進するために、以下の役割を担う。 SDGs とスポーツ振興策の企画立案・実施 学外への防災・安全安心教育と連携したスポーツ指導の推進 スポーツを通じた地域活性化と自走できる収益力ある取組の企画・実施 学生アスリートが地域活性化分野で活躍できるキャリア支援活動
具体的に 行った業務	コンソーシアム形成に向けた三木市等との交渉・協議への参画 大学のスポーツ資源強化に向けた活動の企画・立案 コロナ感染症拡大期における学生アスリートのキャリア支援活動

2. コンソーシアムの形成

本学における事業の大きな目的の一つである地域活性化の効果を最大化するため、三木市や三木市で活動する団体との連携を想定したコンソーシアムを形成することとする。

ここでは、コンソーシアム形成の前提となる目的や取り組み方向性の整理、コンソーシアム構成員やその役割の整理について記載する。

また、本事業の中で整理した事項に関し、コンソーシアムの構成員との意見交換を行った「第1回コンソーシアム会議」について、その開催概要もあわせて記載する。

(1) コンソーシアムの目的や取り組みの方向性の整理

コンソーシアムを形成するにあたって、本学の有する資源や三木市の資源を整理し、三木市の活性化やスポーツを通じた健康増進に寄与しうる目的や取り組みの方向性を整理する。

1) 大学の有する資源（特徴・強み）

本学は、スポーツに加え、防災士資格取得のための養成研修実施機関として、大学等高等教育機関の認定校であり、防災に関する豊富な知見を有していると言える。

学生防災士の輩出は関西一の実績を有しており、防災への取り組みに関心の高い学生も多く在籍しているなどの特徴がある。

健康増進についても、看護学科を有しており、地域の中核医療施設である北播磨総合医療センターとの連携・協働が生み出す実践的経験を積んだ地域医療貢献人材を輩出するなど専門的知見を活かした、スポーツによる健康増進への取り組みも可能な環境が整っている。

加えて、地域活性化と関係の深い観光の分野においても、観光学科を有しており、観光・地域連携プロジェクトにて魅力創出等も実施しているため、スポーツや健康増進を通じた観光振興の取り組みなども可能と考えられる。

2) 三木市の有する資源（特徴・強み・市内の関連施設）

三木市は西日本一の数を誇る 25 のゴルフ場を中心に、世界トッププレイヤーも使用する世界基準のテニス場（全9コート）やサッカーコート（芝グラウンド3面、土グラウンド複数）も一定数あり、スポーツに取り組むための資源が充実している。

また、本学が強みを有する防災においても、三木市には兵庫県の広域防災拠点の中核施設が市内に設置されており、防災に取り組むための環境が充実していると考えられる。

健康増進についても、過去の日経グローバルの調査において医療介護ランキング兵庫県1位など医療介護などの施設を利用しやすい環境が充実していると言える。加えて、三木市近郊にある北播磨総合医療センターでは、スポーツのケガや障害の予防にも力をいれており、健康増進の観点でのスポーツを通じた地域活性化などへ取り組みやすい環境と言える。

観光については、特産品として日本一の生産量を誇る酒米「山田錦」や約400年の歴史を持つ「三木金物」などがあり、自然体験が可能なレクリエーション施設も複数あるため、外部からの訪問者にとって魅力的な観光資源が充実していると言える。

3) 目的や取り組みの方向性

大学の有する資源や三木市の有する資源を踏まえ、主要なコンソーシアム構成員である三木市と共に、コンソーシアムの目的や取り組み（案）の整理を行った。

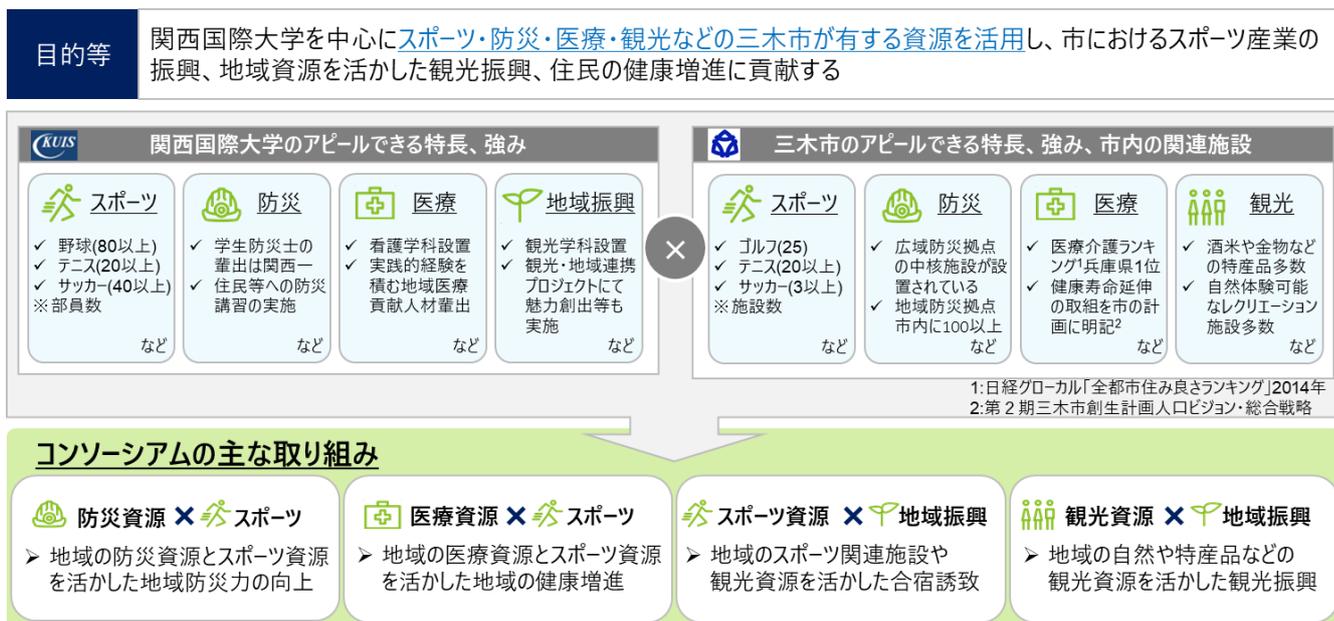
コンソーシアムの目的は、前頁にて整理した大学や三木市資源を活用して三木市の活性化等に寄与するため「関西国際大学を中心にスポーツ・防災・医療・観光などの三木市が有する資源を活用し、市におけるスポーツ産業の振興、地域資源を活かした観光振興、住民の健康増進に貢献する」と設定した。

これらを参考に、コンソーシアムの方向性として以下の4つに寄与する取り組みを推進することとする。

- 防災資源を活かした地域防災力の向上
- スポーツによる地域の健康増進
- 地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致
- 三木市の資源を活かした観光振興

なお、本学や三木市の資源の詳細の整理結果は、次ページ図表6に掲載する

図表 5 コンソーシアムの目的や取り組み方向性



図表 6 大学資源（特徴・強み）と三木市資源（特徴・強み・市内の関連施設）の整理

	大学	三木市
防災資源を活かした地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生防災士の輩出は関西一 ※2017年以降で累計612名 ・防災士養成講座は、県内企業6社の協力を得て開講 ✓ 住民等への防災講習の実施 ✓ 市内自主防災組織代表者や自治会役員等へ講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 兵庫県広域防災センター ✓ 兵庫県立三木総合防災公園 ・毎年防災イベント開催 ✓ 自治会単位の自主防災組織 ・自治会活動の一環（共助の精神） ・防災リーダーの会による定期的な取り組み
スポーツによる地域の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 看護学科設置 ・実践的経験を積む地域医療貢献人材輩出 ・看護専門者（看護師・保健師・助産師）の養成 ✓ 大学青垣教育連携拠点（丹波市） ・地域の健康づくりイベントを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 北播磨総合医療センター¹ ・運動障害、スポーツ障害などの診療および治療 ・健康管理センターを院内に設置 ・生活習慣病やがんの早期発見に重点をおいた人間ドックや町ぐるみ検診 ✓ 医療介護ランキング²兵庫1位
地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 活発なスポーツへの取り組み ・野球部（部員数80名以上） ※明治神宮大会ベスト4 ・テニス（部員数20名以上） ※テニスクリニックなども実施 ・サッカー（部員数40名以上）など ✓ その他、経営学科で「スポーツビジネス」なども取り扱う 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ゴルフ場数西日本一（25施設） ✓ その他テニス施設（20面）・サッカー施設（芝3面・土複数）多数 ✓ 以下、複数の運動施設あり ・三木総合防災公園陸上競技場 ・三木山総合公園 ・吉川総合公園 ・三木グリーンパーク ・緑が丘スポーツ公園など
三木市の資源を活かした観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 観光学科等で地域魅力創出等の複数実績あり ・京阪神初のヘルスツーリズム認証（経産省：健康寿命延伸創出推進事業）とウェルネスウォーキングを実施（神戸市と連携） ・よかわオープンイノベーションラボにおける地域特産品・PR発信 ✓ 経営学科にて地域活性プロデューサー人材育成に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 酒米や金物など特産品多数 ・山田錦 ・三木金物 など ✓ 特産品等販売施設多数 ・道の駅みき ・山田錦の館 など ✓ 自然体験可能なレクリエーション施設多数 ・ホースランドパーク ・ネスタリゾート神戸 など

1：三木市小野市の両市で一部事務組合を設立・運営しており、両市の入院患者受け入れを行っているため、市内の関連施設の位置づけで掲載
2：日経グローバル「全都市住み良さランキング」2014年

(2) コンソーシアム構成員やその役割

整理した目的や取り組みの方向性などを踏まえ、初期のコンソーシアム構成員としては、三木市に加え、三木市を中心に活動する兵庫県広域防災センター、三木市教育委員会、三木市ゴルフ協会の4団体を想定した。

役割の想定として、本学及び三木市は、コンソーシアムの取り纏めや各イベントの企画などを中心に取り組むこととし、兵庫県広域防災センターは、防災イベント（本イベントについては2章3(1)防災資源を活かした地域防災力の向上にて詳細を掲載）検討時に助言を頂くなどでの連携を予定する。三木市教育委員会は、児童等も対象とするイベント開催時の周知に協力頂き、三木市ゴルフ協会は三木市の資源であるゴルフ場を活用したイベント検討時に連携するなどを予定している。

将来においては、初期のコンソーシアム構成員と共に、4つの取り組みを推進しつつ、防災・健康増進・合宿誘致・観光などに関連の深い団体なども巻き込むことで、取り組みの拡大発展を通じた三木市の地域活性化に貢献することを予定している。

図表 7 コンソーシアムの構成員やその役割



(3) 第1回コンソーシアム会議の開催概要

コンソーシアムの構成員（本学、三木市、広域防災センター、三木市教育委員会、三木市ゴルフ協会）で、2021年1月27日に第1回コンソーシアム会議を開催した。

会議では、これまで整理を行ってきたコンソーシアムの目的や取り組みについての説明を行い、それらについての意見交換を行った。

図表 8 第1回コンソーシアム会議概要

項目	内容
開催日時	2021年1月27日（水）10:00～11:30
開催場所	兵庫県三木市会議室
参加団体等	三木市 総合政策部企画政策課：縁結び課、危機管理課 健康福祉部：健康増進課 産業振興部：ゴルフのまち推進課 教育総務部：文化・スポーツ課 三木市教育委員会、三木市ゴルフ協会、兵庫県広域防災センター ※兵庫県広域防災センターは当日欠席であったが、後日内容を共有し会議当日の説明内容について合意を得ている
開催の目的	関西国際大学を中心にスポーツ・防災・医療・観光などの三木市が有する資源を活用し、市におけるスポーツ産業の振興、地域資源を活かした観光振興、住民の健康増進に貢献するために必要な連携体制・役割の検討
協議概要	コンソーシアム組成のキックオフ会議を実施した。当日の議題は、以下の4つを主なテーマとし、活発な意見交換を行った。 【当日の議題】 ✓ コンソーシアム設立経緯の共有 ✓ コンソーシアムの取り組み方向性の設定 ✓ コンソーシアムメンバーとその役割の設定 ✓ 今後の取り組みの方向性の共有
当日の様子	

3. 地域活性化策の検討

地域活性化策の検討では、「2章2(1)3 目的や取り組みの方向性」で整理した4つの取り組みを軸に、コンソーシアムの中心メンバーである三木市と協議を繰り返して検討を進めてきた。

ここでは、各取り組みにおける今年度の検討事項を掲載する。また、複数回実施した三木市とのミーティング（以下、MTG）の概要を次頁図表10に掲載する。

なお、各検討事項の今年度の具体的な活動については、「2章3(1) 防災資源を活かした地域防災力の向上」以降に、その詳細を記載する。

図表 9 具体的な取り組みに向けた実施状況

コンソーシアムの取り組み	取り組み毎の今年度検討事項
防災資源を活かした地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 防災に関する取り組みを行う団体へのヒアリング ✓ 今年度のトライアルイベント開催に向けた検討 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度の実施は見送り ✓ 3カ年での防災への取り組みの拡大発展の構想
スポーツによる地域の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 次年度の具体的取組に向けた健康増進イベント案の検討 ✓ 生涯スポーツ I（ゴルフ実技）の開催
地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スポーツ合宿を実施する他都市事例の調査 ✓ スポーツ合宿施設運営経験がある有識者へのヒアリング ✓ スポーツ合宿誘致に向けた具体的取り組み事項整理
三木市の資源を活かした観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学と連携した地域振興への取り組み事例の調査 ✓ 大学の地域振興に寄与する知見等の整理 ✓ 大学や三木市資源を活かした今後の取り組み検討

図表 10 三木市との打ち合わせ概要（下線部は地域活性化に向けた検討事項）

No.	開催日	主な協議事項
1	2020年6月5日 (仲田市長訪問)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業概要説明推進体制の確認 【三木市参画部局】 ・総合政策部:企画政策課、縁結び課、危機管理課 ・健康福祉部:健康増進課 ・産業振興部:観光振興課、ゴルフのまち推進課 ・教育総務部:文化・スポーツ課 ✓ 春中、春高ゴルフ大会三木市開催決定 (両者の協力体制構築に向けて)
2	2020年7月30日 (三木市とのMTG)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>本事業(スポーツ庁補助)の概要</u> ✓ <u>地域振興における連携施策案</u> ✓ <u>関連事例の紹介</u>
3	2020年8月27日 (三木市とのMTG)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>ゴルフ場を活用した防災スポーツイベント案</u> ✓ <u>地域の健康づくりにかかる取組イメージ</u> ✓ <u>スポーツ合宿・廃校の利活用策</u> ✓ <u>その他大学の資源を活用した地域振興策</u>
4	2020年10月13日 (三木市とのMTG)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後のタスクの洗い出し及びスケジュール確認 ✓ 今年度三木市にご協力頂きたい事項
5	2020年11月25日 (三木市とのMTG)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンソーシアムの設立の目的やメンバーの想定 ⇒コンソーシアム結成に向けての、三木市・大学の役割とタイムスケジュールの決定、合意 ✓ <u>防災スポーツに関する具体イメージ(トライアル)の共有</u> ✓ <u>スポーツ合宿における廃校活用イメージに関する意見交換</u>
6	2020年12月16日 (三木市とのMTG)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中間報告書の内容共有と今後のスケジュール ✓ <u>大学の観光資源活用事例のご紹介</u> ✓ <u>関西国際大学における地域振興の取り組みや三木市との連携想定</u>
7	2021年1月27日 【 <u>第1回コンソーシアム会議</u> 】	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>コンソーシアム設立経緯の共有</u> ✓ <u>コンソーシアムの取り組み方向性の設定</u> ✓ <u>コンソーシアムメンバーとその役割の設定</u> ✓ <u>今後の取り組みの方向性の共有</u> 【参加団体】 三木市(総合政策部企画政策課、縁結び課、危機管理課、健康福祉部健康増進課、産業振興部ゴルフのまち推進課、教育総務部文化・スポーツ課)、三木市教育委員会、三木市ゴルフ協会、兵庫県広域防災センター(当日欠席、後日共有)

(1) 防災資源を活かした地域防災力の向上

本学は学生防災士の輩出は関西一の実績を有しており、また、防災・減災等に取り組む教授も在籍している。三木市においては、兵庫県の広域防災拠点ネットワークの中核として、全県域をカバーする総合的な機能を有する兵庫県広域防災センターを有しており、同センターでは、県民を対象とした体験型の学習や訓練を実施している。また、毎年9月には、三木市と三木市消防本部が共同で「総合防災訓練と防災フェスティバル」を開催しており、防災に関する取り組みが活発に行われていると言える。

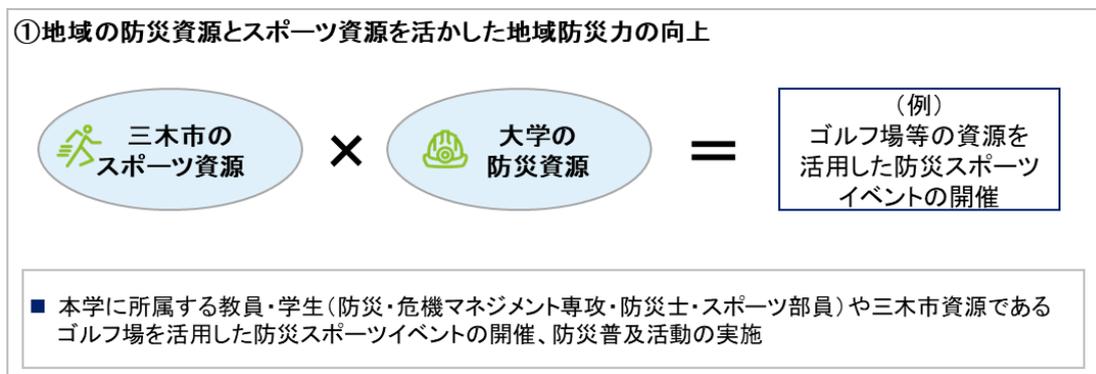
本事業においては、上記の本学及び三木市の資源を活かしつつ、大学スポーツの持つ潜在力を組み合わせ、地域の活性化に貢献するため、防災に関するコンソーシアムの取り組みの中で、住民等が参加しやすい形でのイベントである防災スポーツ*の開催等を推進する。

今年度の事業では、自治体や民間企業を対象に類似の取り組みを行う団体へのヒアリング、ヒアリング結果を踏まえた三木市でのトライアルイベントの実施、これらの活動結果を踏まえた複数年での拡大発展の構想を検討するものとする。

なお、トライアルイベントについては、2021年2月の実施を想定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催延期になっている。

※防災スポーツの概要については次頁【参考】にて掲載。

図表 11 大学及び三木資源を活用した防災における取組イメージ



【参考】

スポーツ庁長官賞受賞団体が取り組む「防災スポーツ」の紹介

防災スポーツとは、株式会社シンクが提供するスポーツを通じて防災を体験するコンテンツの名称であり、防災にスポーツの持つ親しみやすさを取り入れ、防災を身近に感じ、実際に体験しながら身体で覚えることができるスポーツイベントとされている。

防災スポーツは、令和2年11月4日に「スポーツ庁長官賞」を受賞しており、その際は、「災害の多い日本で、スポーツとして防災に取り組み、スポーツによって学ぶことが特徴的で、老若男女が気軽に楽しく参加できる環境作りと健康意識の向上に寄与できる」などが評価されている。

図表 12 防災スポーツのポイント（特徴）

POINT 1	スポーツ競技のように体を動かして体験できる
POINT 2	災害時に活かせる防災の知恵と技を身体で覚える
POINT 3	タイムトライアルで安全により速くを競う
POINT 4	チーム戦で協力・コミュニケーションを学ぶ

図表 13 防災スポーツ実施時の写真



出所：株式会社シンク Web ページ

図表 14 防災スポーツの「スポーツ庁長官賞」受賞情報

★スポーツ振興賞	
スポーツ庁長官賞	賞状、トロフィー
作品名：防災スポーツ～スポーツを通じて楽しく学ぶ防災学習プログラム～ 受賞者：株式会社シンク（東京都千代田区）	

出所：日本スポーツツーリズム推進機構 Web ページ

1) 防災に関する取り組みを行う団体へのヒアリング

コンソーシアムによる取り組みを進める上での参考とするため、自治体や企業の防災イベントの支援を行っている団体にヒアリングを実施した。

当該取り組みを行う団体は複数あるため、一定の実績を有し、本学がリレーションを有する1団体に依頼を行い、当該取り組みの概要や効果についてヒアリングを行った。

① ヒアリング団体の支援概要

- 自治体や大手企業等の防災に関する取り組み支援等を行っており、一定の実績を有している
- 主に、連携団体の防災等のイベントにおいて子供など多様な参加者が防災について学べるようプログラム検討などを行っている

② ヒアリング結果

ヒアリングでは、防災をイベント化することで、参加者増加の効果も期待できるなどの回答もあった。また、将来的にはコンソーシアム等の強みを活かした独自プログラムの検討や大会開催・合宿化などの拡大発展に向けた検討も可能などの意見もあった。

図表 15 ヒアリングの結果概要

ヒアリング事項	回答概要
効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 通常の防災訓練より、イベントなどの形で参加しやすい空気とすることで、参加者増加の効果が見込める。特に子供連れの参加者は増える傾向にあり、幼い頃から防災について考えられる機会を増すなどの効果も期待できる。 ✓ イベントの中で体験ができるプログラムを提供することで、知識だけではなく体験として覚えられるなどの効果も期待できる。
プログラムの検討	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 初期は他事例での防災体験プログラムを参考にトライアル的に開催するなど失敗が少ないと考えられる。 ✓ トライアル開催などで得たノウハウを使い、三木市の特徴やコンソーシアムの強みなどを活かした独自プログラム検討などを行うことで、地域に根ざした防災イベントとすることも可能と考えられる。
将来の取り組み ※大会開催や合宿化などの拡大発展化の検討について	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 我々の団体では、大会の開催や合宿化などの検討を行ったことはないが、検討可能な取り組みと感じる ✓ プログラム検討やイベント実施の経験を積み重ねる中で、大会や合宿化などのプログラム検討も可能になると考えられる（コンソーシアムと我々が連携することでその部分の支援も可能）。

2) 今年度のトライアルイベント開催に向けた検討

将来において三木市民や企業などを対象とした防災イベントの開催に繋げるため、今年度はトライアルイベントの開催に向けた検討を進めてきた。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から今年度実施予定であったトライアルイベントは延期となったが、ここでは、検討を進めてきたトライアルイベントの内容について記載する。

① トライアルイベント開催の目的

次年度以降の三木市民や企業を対象とした防災イベントの開催に向けて、今年度はトライアルイベントの実施により課題把握や安全対策・感染対策ノウハウ獲得を目指す。

② 運営イメージ

当日の運営スタッフ（準備、受付、監視スタッフ）は本学の学生10名程度の協力も想定する。なお、今年度については、本学も開催ノウハウが不足している状況などを考慮し、防災イベントの開催支援を行っている団体と連携した開催とする。

開催場所については、三木市スポーツ資源であるゴルフ場の一部を活用した開催を想定する。

③ プログラム企画イメージ

今年度はトライアルによる運営ノウハウの獲得などを目的とするため、他都市で開催されたプログラムを踏襲する形での開催を想定する。イベント当日に使用する備品についても、他で使用されている備品をレンタルするなどを想定する。

④ 参加者イメージ

今年度はトライアルであるため、一般市民の受付などは想定しない。参加者は、本学学生や連携予定のゴルフ場従業員に加え、コンソーシアムの構成員から数名ずつ参加頂く形で計30名～50名などでの開催を想定する。

図表 16 防災におけるトライアルイベントの開催イメージ

		今年度イメージ (トライアル)	想定事項
イベント概要	スタッフ		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学から10人程度スタッフを出すことを想定 <ul style="list-style-type: none"> ※プログラム数×2人程度の人数確保が必要 ※その他受付などが必要
	企画 プログラム 用品		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 数個のプログラムでの開催を想定 ✓ ゴルフ場との連携による開催も想定 <ul style="list-style-type: none"> ※実施における課題やノウハウ（安全対策・感染対策等）習得が目的 ✓ レンタルを想定 ✓ 一部備品購入も想定 <ul style="list-style-type: none"> ※実施における課題やノウハウ（安全対策・感染対策等）習得が目的
	参加者		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 30～50人などを想定 ✓ 学生、ゴルフ場従業員に加え、コンソメンバーにも参加打診を想定 <ul style="list-style-type: none"> ※コンソメンバーは将来的は広報やプログラム検討に協力頂く

3) 3カ年での防災への取り組みの拡大発展の構想

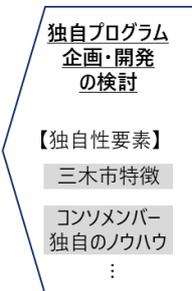
防災スポーツは数年程度をかけて、地域への浸透や拡大発展を目指すこととする。

来年度については、今年度検討を行った内容でトライアルイベントの開催を予定し、再来年度は、新型コロナウイルスの感染者数等の状況を見ながらにはなるが、市民を対象とし200人などの規模での防災スポーツイベントの開催を予定している。

3年目には、トライアルイベントや市民対象での防災イベント開催のノウハウを活かし、三木市の観光資源や特産品、コンソーシアムのノウハウなどを取り込んだ独自プログラムの検討などを行い、地域に根付いたイベントの企画を予定する。また、市民のみではなく企業も対象とした防災イベント開催についても検討を進めることとする。

これらの取り組みを更に拡大発展させ、三木市の活性化にも繋げていくため、将来的には、防災イベントの大会化や合宿化などを検討し、三木市の訪問者数や宿泊者数の増加などに寄与していくなどを想定する。

図表 17 再来年度までの防災スポーツの拡大発展イメージ

		1年目 (来年)	2年目	3年目	イメージ
イベント概要	スタッフ	✓ 10人など	✓ 50人など ※コンソメンバーも スタッフ等で参加	✓ 50人など ※コンソメンバーも プログラム企画や 広報等に協力	
	企画	✓ 数個のプログラムでの開催を想定	✓ 市民向けにプログラム数を増やすなどを想定	✓ 独自プログラム等の企画 ※地域の防災訓練との連携も検討	
	用品	✓ レンタルを想定 ✓ 安全及び感染対策用品の購入	✓ レンタル+一部関連用品購入を想定	✓ 用品一式購入や用品開発などを想定	
	参加者	✓ 30～50人などを想定 ✓ 学生・ゴルフ場従業員対象	✓ 200人など ✓ 市民対象	✓ 200人など ✓ 市民対象 ※企業を対象とした防災スポーツの開催による収益獲得も検討	

(2) スポーツによる地域の健康増進

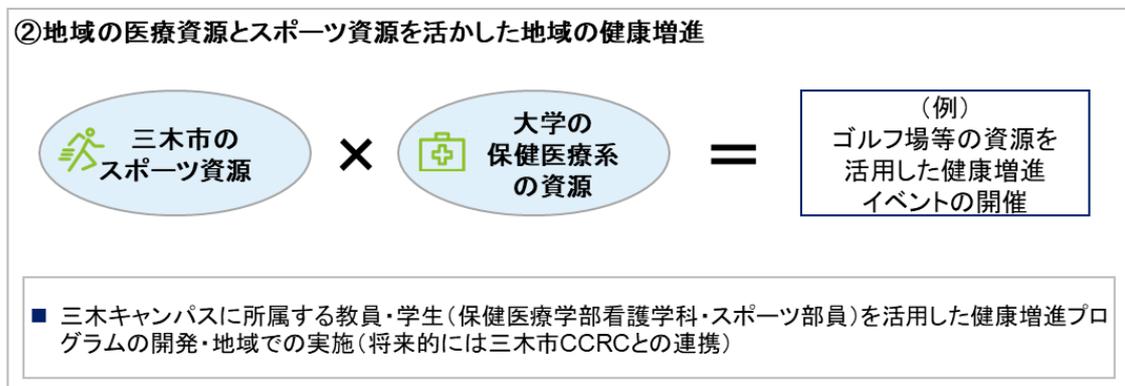
健康増進においては、「図表 6 大学資源（特徴・強み）と三木市資源（特徴・強み・市内の関連施設）の整理」で述べた通り、本学は、看護学科を設置し、北播磨総合医療センターと連携した実践的経験を積む地域医療貢献人材を多数輩出し、看護専門者（看護師・保健師・助産師）の養成にも力を入れている。また、地域医療福祉・予防医療・健康科学に取り組む教授も在籍している。

三木市においては、北播磨総合医療センターが地域の中核として、北播磨地域をカバーする総合的な機能を有する総合医療施設を有している。院内に設置された健康管理センターでは、住民を対象とした生活習慣病やがんの早期発見に重点をおいた人間ドックや町ぐるみ検診を実施しており、健康増進や予防に関する取り組みが活発に行われている。

本事業においては、上記の本学及び三木市の資源を活かしつつ、大学のスポーツや看護医療の持つ潜在力を組み合わせ地域の活性化に貢献するため、健康増進に関するコンソーシアムの取り組みの中で、住民等が参加しやすい形で健康について学ぶことができるイベント開催等を推進することとする。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大などの影響を踏まえ、三木市の豊富な資源との実質的な連携は進んでいないが、将来的には、コンソーシアムとの連携も想定している。

これらを踏まえ、今年度の事業では、次年度の具体的取組に向けた健康増進イベント案の検討を行った。また、三木市との共同共催、三木市ゴルフ協会の協力のもと、健康増進に紐づく取り組みの一つとして、一般市民が参加可能な公開講座を含む「生涯スポーツ I（ゴルフ実技）」を開講した。

図表 18 大学及び三木資源を活用した健康増進における取組イメージ



1) 次年度の具体的取組に向けた健康増進イベント案の検討

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止などの観点から、具体的なイベント開催等には繋がっていないが、次年度の具体的な取り組みに向けて、地域資源や大学資源を活用した健康増進イベント案の検討を行った。次年度については、これらの検討内容を参考に地域活性化に貢献しうるイベントの検討や実施を想定するものとする。

ここでは、三木市のスポーツ資源であるゴルフ場を活用し、大学資源の資源である観光やスポーツ、医療を組み合わせた企画について掲載する。

① 検討概要

ウェルネスウォーキング教室やヨガなどを開放感のあるゴルフ場で実施し、健康維持のために必要な1日のウォーキング目安やその効果などを知ってもらうイベントで、子どもや高齢者、子育て世代に加え、ビジネスパーソンなどに参加頂くなどを想定する。

② 想定される効果

新型コロナウイルスの感染拡大などの状況において、外出などが難しく心身の不調に悩んでいる住民も多いと考えられる。三木市の特徴であるゴルフ施設を拠点に、健康増進に繋がるプログラムを検討することで、住民の健康増進に加え、心と体の健康につながるコミュニティ形成にもつながり、地域活性化策に繋がるなどの効果が期待できる。

図表 19 健康増進イベント案の想定

	仮名称	概要	対象	イメージ
1	ゴルフの森での食事体験	自然を感じられるゴルフ場の中で、地元食材を使った健康食などを提供し、それらの食材が持つ栄養素や特徴などを知ってもらう	地域に住む主婦、高齢者、ビジネスパーソン	 出所：ダイニングアウト
2	ゴルフの森セラピー体験	開放感があり、緑の多いゴルフ場で、セラピー教室を実施。参加者は非日常体験を通じて、日常のストレスの軽減につながる	地域に住む主婦、高齢者、ビジネスパーソン、アスリート	 出所：千葉大学 Web ページ
3	ゴルフ場でウェルネスウォーキング体験	ウォーキング教室をゴルフ場で実施。ゴルフ場内を歩き、幸せな生き方(Well-being)、働き方について考える。同時に、予防医療の特徴、効果なども知ってもらう	地域に住む子育て世代、高齢者、ビジネスパーソン	 出所：「Aウォーキング教室」 東京深海広域防災公園

2) 生涯スポーツ I (ゴルフ実技) の開講概要

当初計画では健康に関わる講座等の実施を想定していたが、三木市との打ち合わせの中で、三木市のスポーツ資源であるゴルフをテーマに、一部市民にも開放した授業形式に変更して開講した。座学と実技に分けて 15 回授業を実施し、座学部分については、関西国際大学にて市民開放型で実施することとした。

ここでは、当該授業の開催（公開講座として Web による限定配信）の概要について掲載する。

図表 20 生涯スポーツ I (ゴルフ実技) の概要

項目	内容
日程	<p>2021 年 2 月 5 日 (座学：関西国際大学三木キャンパスで実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 回目：ガイダンス ● 2～3 回目：「ゴルフの魅力発見」川田太三氏講演 <p>➤ 公開講座として開放。広報みき 1 月号にて三木市民中心に 75 名募集</p> <p>2021 年 2 月 8 日～10 日 (実技：三木ゴルフ倶楽部で実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4～5 回目：体幹トレーニング ● 6～15 回目：基礎レッスン <p>➤ 動画撮影し、記録と同時に次年度以降の受講者確保のイメージ映像として活用</p>
目的と概要	<p>ゴルフのまち三木にある大学という立地を生かし、ゴルフの歴史などのゴルフ文化を学び、体幹トレーニングやゴルフレッスンの実技を通して、身体のメカニズムを知り実際にプレーすることで、生涯にわたる自分自身の健康管理に役立てることをめざす。</p>
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 三木市内には 25 のゴルフ場がある。三木市内に唯一の大学として、ゴルフ文化について学ぶ。 ● 生涯にわたってゴルフをプレーすることで、健康維持のきっかけとする。 ● 三木キャンパスはゴルフのまち三木にあることを学生が実感できる機会になる。
期待効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 受講した学生は年齢的にもゴルファーに育つ可能性が高い。また、社会人になってからも授業を受けた三木のゴルフ場に来るきっかけになりうる。 ● 経営学部の学生は、地域マネジメント専攻（地域創生）の学びへつなげることができる。
当日の写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(実技)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(講義) ※撮影時に限りマスクを外しています</p> </div> </div>

図表 21 関西国際大学公開講座の案内チラシ

共催 三木市
春高・春中ゴルフ開催市(第10回 全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会)
関西国際大学

協力 三木市ゴルフ協会



Kansai University of
International Studies

ゴルフの魅力発見

～生涯スポーツとしてのゴルフのあり方～

講師

川田 太三 氏

Taizo Kawata

株式会社ティアンドケイインターナショナル代表取締役
公益財団法人日本オリンピック委員会名誉会員
日本ゴルフコース設計者協会理事長



1944年2月20日、東京都生まれ。米国オハイオ州立大学を経て1967年立教大学を卒業。株式会社ティアンドケイインターナショナルを設立、代表取締役。長きに渡り、財団法人日本ゴルフ協会の各種委員会委員(国際、規則、コース選定、政策、アンチ・ドーピング等)を務め、世界アマチュア選手権日本選手団団長、アジア大会ゴルフ監督を歴任。メジャートーナメント(全英オープン、マスターズ、全米オープン等)のレフェリーを務める。日本オープン、全米オープン、クラウンズトーナメント等の多数のゴルフ番組の解説の他、一般紙、ゴルフ雑誌等に執筆。新設、改造も含め設計・監修したコースは50コースを超える。USGA(全米ゴルフ協会)より2013年度「Joe Dey Award」を受賞(外国人として初の受賞)。



YouTube
限定配信!

お申込み方法 右記QRコード、または、大学HP『ゴルフの魅力発見』申込フォームよりお申込みください。

申込締切

2/12 12:00

*お申込み後、You TubeのURLをメールにてお送りさせていただきます。



配信日時

2021.2/15 10:00

～2/27 24:00



受講
無料

問合せ 関西国際大学 コミュニティ交流総合センター(社会連携課)

TEL:(0794)84-3505 FAX:(0794)84-3562



三木市ゴルフ協会キャラクター

スポーツ庁「2020年度」大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業

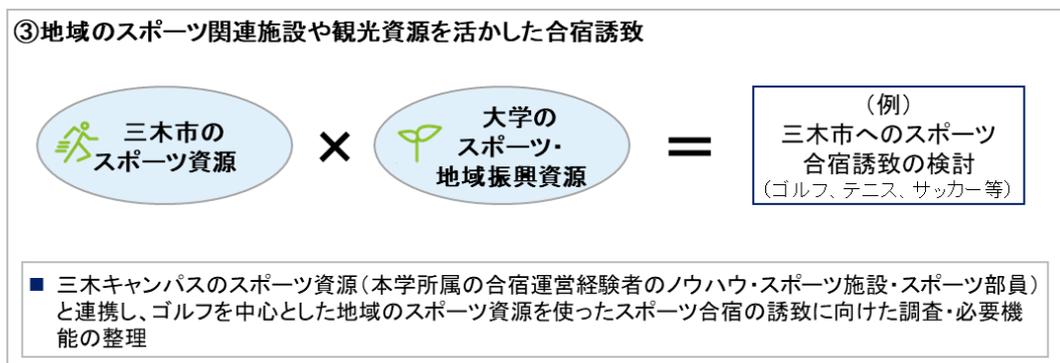
(3) 地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致

本学は明治神宮大会ベスト4などの実績を有する野球部に加え、テニスやサッカーなどスポーツに積極的に取り組んでいる。また、経営学科の地域マネジメント専攻においては、地域創生も取り組むテーマの一つとしてあげられており、地域振興の知見も有している。2021年度から山手キャンパスに国際コミュニケーション学部観光学科が新設され、観光振興に関心の高い学生も多く在籍することが想定される。三木市においては、西日本一の施設数があるゴルフ場を中心にテニスコートやサッカーコートなどもあり、スポーツに取り組める環境が整っていると言える。

本事業においては、上記の本学及び三木市の資源を活かすため、スポーツに関するコンソーシアムの取り組みの中で、合宿誘致を推進することとする。

今年度の事業では、参考とする他都市事例の調査、スポーツ合宿施設の運営経験を持つ有識者へのヒアリング、ヒアリング結果を踏まえた具体的取組事項の整理を行うこととする。

図表 22 大学及び三木資源を活用した合宿誘致における取組イメージ



1) スポーツ合宿を実施する他都市事例の調査

コンソーシアムでのスポーツ合宿誘致検討の参考とするため、先行的な取り組みを行う団体の調査を行った。ここでは、特徴的な3団体（プロチームの誘致に積極的に取り組む団体、アマチュアを中心に誘致している団体、スポーツ以外の要素とかけ合わせて周遊や再訪等に繋げている団体）を対象に、その特徴・効果・成功の要因について公表情報をもとに整理を行った。

調査の結果、一定の実績を持つ団体は、施設予約等の一括手配を行っている事例が多く、合宿予約者の負担軽減に繋げることが、予約者数を増やす重要な取り組みの一つであると考えられる。中には、上位団体へのPRに協力するなども行っている団体もあり、利用者目線に立った支援が新規予約者やリピート予約者の獲得に繋がると考えられる。

また、スポーツ合宿と文化とのコラボレーションにより周遊や再訪に繋げている事例もあった。地域の特色を活かした合宿との連携では、利用者に地域を知って頂ける機会に繋がる上に、地域の観光関連産業の活性化の効果が期待できると考えられる。

図表 23 他都市事例の整理

団体名	特徴・効果 ¹	成功の要因 ¹
かのや SC ²	特徴: プロチーム等を積極的に誘致 効果: トップアスリート合宿 16 組のうち、9 組はチーム合宿 (H30 年実績) ※鹿児島県で最も多い合宿者数	✓ 練習会場、宿泊施設、移動手段、昼食の手配、観光などの案内を SC が一括対応 ✓ 大学のスポーツ資源を活用 (大学機器を活用した身体組成の機能測定など)
矢板 SC	特徴: アマチュア大会を中心に誘致 ※プロ・アマチュア一流選手招致も目標 効果: 宿泊室数が 200 室規模の中で、大会開催情報等の連携により稼働率向上に寄与	✓ 練習場手配、宿泊手配、移動手配、余暇手配を SC が一括受付 ✓ 小学校グラウンドについては利用料無料で貸し出すなどを実施
金沢文化 SC	特徴: 文化×スポーツのコラボで金沢ならではのおもてなし。金沢ファンをつくり、周遊や再訪にもつなげている 効果: 全国規模のスポーツ大会を 2018 年度 3 件、2019 年度 20 件誘致	✓ 奨励金活用支援から、誘致に向けた上位団体への PR 同行までサポート ✓ 施設確保や集客協力まで実施 ✓ 文化×スポーツのコラボレーションでのおもてなしを実現

1: 公表情報から読み取れる内容を整理。成功の要因については三木市域でも転用可能と考えられる取り組みを中心に抽出

2: SC=スポーツコミッション

2) スポーツ合宿施設運営経験がある有識者へのヒアリング

他都市事例の調査結果などを踏まえつつ、公表情報などでは把握が難しい部分についてスポーツ合宿施設運営経験のある有識者にヒアリングを行った。

ここでは、スポーツ合宿の運営概要や誘致に向けた取り組み、取り組みの工夫点、合宿運営における留意点などについてヒアリングを行っている。

① 運営概要

- 対象は主に小中学生のサッカー合宿を想定しており、大会開催等を実施していた（保護者などを含めると1チーム30名前後の規模になる）
- 主な業務としては、誘致に向けた活動、会場の準備、大会運営（対戦表作成など）に加え、教室の開催なども実施していた（事業初期は6名程度で運営）

② ヒアリング結果

誘致においてリレーションは重要となるが、その他のアプローチ方法もあるなどの話があった。リピートして頂くための工夫として、利用者目線でのきめ細やかなサービスは重要度が高いなどの話もあった。

図表 24 ヒアリングの結果概要

ヒアリング事項	回答概要
誘致に向けた 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 有名高校の監督も当合宿運営に関与していたため、そのリレーションを活用した電話等でのアプローチが多かった。（大会を企画し、参加を募る電話を実施など） ✓ その他の広報方法として旅行会社への依頼や大会のチーム誘致を支援してくれる企業などの利用も考えられる（一定の費用は必要となるため、利用方法は検討が必要） ✓ 企画した大会について関連する協会にチラシを配るなどを実施することもあった
取り組みの 工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設予約の一括受付に加え、料金もまとめて支払い頂くなどで、負担を減らすよう努めていた ✓ 有名高校の1年生と中学生が試合できるような企画なども検討していた ✓ 保護者向けに近隣で評判の良い飲食店などを紹介や予約を行うなども実施していた
合宿運営における 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生などをターゲットにする場合、安価な金額設定は重要になる ✓ 極力予約を受け付けられるよう、コート数は余裕がある方が良い ✓ 合宿専用の宿泊施設を設ける場合は、洗濯機の位置やコンセントの数など細かい調整で合宿での宿泊のしやすさが変わるため、合宿運営者の意見を仰ぐなどは実施した方が良い

3) スポーツ合宿誘致に向けた具体的取り組み事項の整理

他都市の事例調査や有識者へのヒアリング結果を踏まえ、スポーツ合宿を誘致するためにコンソーシアムが有すべき機能の整理を行った。

また、将来は、スポーツ合宿誘致と他の3つの取り組みとの連携による拡大発展などを目指すものとするが、まずは短期的にどのような取り組みを行うかの方向性の整理を行った。

① スポーツ合宿を誘致するためにコンソーシアムが有すべき機能の整理

他都市事例の調査結果やヒアリングの結果を踏まえ、大きくは受付機能、広報機能、誘致イベントの企画機能の3つの機能が特に重要と考えられる。

各機能については、段階的な拡大が必要と考えており、合宿誘致への取り組み初期は規模を絞った機能の保有を想定する。

具体的には、受付機能については、HP等の作成などを行い、その機能は初期から有するものとするが、初期で予約できる範囲は市が管理しているスポーツ施設に限定されるなどが想定される。一定のノウハウを得た段階で、関連スポーツ施設にも当該取り組みに参画頂き、受付可能な施設範囲の拡大を予定する。中長期には宿泊施設、市内レクリエーション施設、市内飲食施設などとの連携を行い、受付機能をスポーツ施設以外にも拡大するなどが想定される。

広報機能やイベント企画機能については、初期はコンソーシアムが保有するリレーションを活用した大会の開催などからスタートする。その中で、合宿誘致のノウハウを蓄積し、ターゲットに合わせた合宿プランの企画などを行い、そのPRを行うものとする。中長期には、企画部分では、合宿に合わせた周遊プランなどの企画を行い、それらの取り組みを進めつつ、観光に特化したプラン企画などを行うことも想定される。広報部分では、旅行代理店との連携での広報や近隣のDMOなどとの連携による広報機能なども活用することが想定される。

図表 25 合宿誘致に必要な機能の整理

機能分類	詳細
受付機能	<ul style="list-style-type: none"> ✓ HP等のインターネット媒体を活用した受付機能 ✓ 電話での受付機能 ✓ 施設の予約管理機能
広報機能	<ul style="list-style-type: none"> ✓ HP等のインターネット媒体を活用した広報機能 ✓ リレーション等を活用した広報機能 ✓ 旅行代理店を活用した広報機能 ✓ チラシ等を活用した広報機能
誘致イベントの企画機能	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各スポーツの大会企画検討機能 ✓ 合宿プラン企画機能 ✓ 合宿に合わせた周遊プラン企画機能 ✓ 観光に特化した宿泊プラン企画機能

② 合宿誘致における短期的な取り組み方向性の想定

前述のように三木市には多くのスポーツ資源が充実しており、ゴルフなどを中心に市外からのスポーツ施設の利用者も多いと言える。ゴルフにおいては、春高・春中ゴルフの開催地であり、練習ラウンドにおける限定特別メニューなども提供しており、通年にわたりプレーヤーに加え、その保護者も訪問している。他のスポーツにおいても、市内のスポーツ施設を活用した大会の開催などが行われており、市外からの訪問者は一定数存在すると考えられる。

これらの状況を踏まえ、短期的には、既存の取り組みや既存のリレーション等を活用した合宿化の検討などによる「訪問者の三木市における滞在時間を増やす」取り組みから進めることなどが想定される。

具体的には、既存の大会などで市外からスポーツ施設を利用するための訪問者の滞在時間を増やすためのプラン検討（合宿化を中心とした検討）やコンソーシアムが持つリレーションを活用した大会企画、イベント企画、それらの合宿化などの検討を行うことが考えられる。また、各スポーツの協会や近隣のDMOなどスポーツの振興や地域の振興なども大きな目的の一つである組織との連携により企画や広報の幅を広げることも想定される。

図表 26 短期及び中長期の取り組み方向性



(4) 三木市の資源を活かした観光振興

観光振興においては、「図表 6 大学資源（特徴・強み）と三木市資源（特徴・強み・市内の関連施設）の整理」で整理した通り、本学は、国際コミュニケーション学部観光学科、経営学部経営学科を設置し、地域に根づいた地域活性化の学びを展開している。一例として、吉川町と連携して地域振興策を検討する「よかわオープンイノベーションラボ」を通じた地域特産品・PR と発信などの取り組みを行っている。また、健康と観光をテーマに、神戸市と連携し、京阪神初のヘルスツーリズム認証（経産省：健康寿命延伸創出推進事業）とウェルネスウォーキングプログラムを開発するなど、地域魅力創出等の複数実績があり、地域プロデューサー人材、観光経営人材の養成にも力を入れている。加えて、国際的な視野から観光コンテンツ開発、プロモーション、マーケティング、人材育成に取り組む教授も複数在籍している。

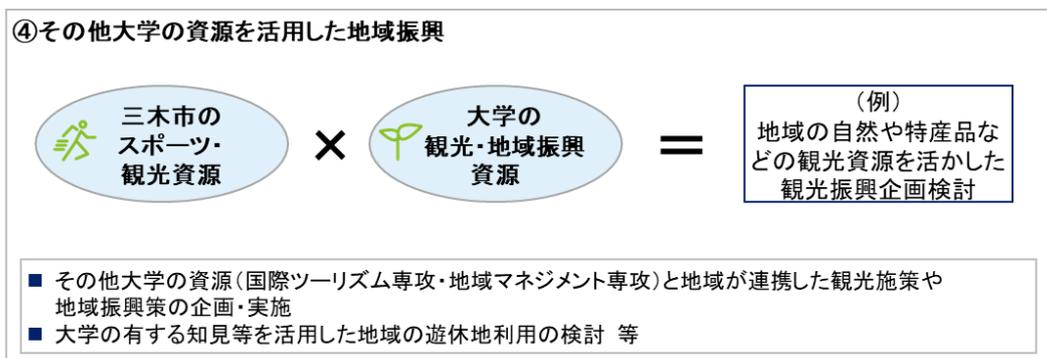
三木市においては、道の駅みきと山田錦の館が地域の中核として、新鮮な農産物、特産品、観光周遊ルートの紹介など総合的な窓口機能を果たしている。他にも、自然体験可能なレクリエーション施設として、ホースランドパーク、ネスタリゾート神戸などが人気である。

本事業においては、上記の本学及び三木市の資源を活かしつつ、大学観光資源の持つ潜在力を組み合わせ地域の活性化に貢献するため、観光振興に関するコンソーシアムの取り組みの中で、地域や観光振興に繋がるイベントの企画やそのPRを行う。

今年度の事業では大学と連携した地域振興への取り組み事例の調査、地域振興に寄与する知見等の整理、大学や三木市資源を活かした今後の取り組み検討を行った。

今後は、これらの活動結果を踏まえた複数年での取り組み拡大を図るものとする。

図表 27 大学及び三木資源を活用した合宿誘致における取組イメージ



1) 大学と連携した地域振興への取り組み事例の調査

コンソーシアムでの三木市の資源を活かした観光振興策の検討の参考とするため、先行的な取り組みを行う大学の調査を行った。ここでは、特徴的な3大学(情報配信に取り組む大学、商品企画・開発に取り組む大学、イベント・事業運営に取り組む大学)を対象に、その特徴・効果・成功の要因について公表情報をもとに整理を行った。

調査の結果、一定の実績を持つ大学は、地元事業者と都市部の民間企業との連携を行っている事例が多く、若者や第三者の力を上手く取り入れながら地域資源を発展させていくことが、関係人口や地域経済の活性化につながる重要な取り組みであると考えられる。

また、地元の食文化と大学の学食とのコラボレーションによる地元食材の活用や、学生自らが食文化を核とした周遊コースを企画し、ガイド役を務め、新規のファン再訪に繋げている事例もあった。地域の特色を観光の特性を活用し、地域に眠る資源(ひと・もの・情報)を点から線へ、線から面へつないでいくことで、体験参加者や観光客に地域を知って頂ける機会に繋がる上に、新たな観光資源の発掘、人材育成の効果が期待できると考えられる。

図表 28 大学と連携した地域振興への取り組み事例

大学名	特徴・効果 ¹	成功の要因 ¹
大阪観光大学 観光学部 【商品開発・企画】	特徴: 地元食材を活用したオリジナルツアーを企画(観光案内も担う) 効果: 3つの周遊コース制作(泉州食フルコース等)、地域連携「泉州観光講座」開催、リーフレットデザイン、大学食堂での地元食材の活用、地場産品を使ったスイーツの開発	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 熊取町が策定した協働憲章に基づく住民提案事業に申請・採択 ✓ 町の助成を受けて、モニターバスツアーなどを学生が企画運営(主催は卒業生のいる旅行会社に委託。)
淑徳大学経営学部観光経営学科 【情報配信】	特徴: 鉄道会社と連携し、若者目線からの「まち歩きMAP」の作成 効果: 「おごせ街あるき山あるき(17か所)」製作、東上線池袋駅において、両大学の大学生と越生町が共同で同パンフレットを配布する観光キャンペーンを実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東武鉄道株式会社による全体企画、地元店舗・町役場との調整・交渉、校正時の助言支援 ✓ 株式会社 JTB コミュニケーションズによるパンフレットの編集や写真の撮影、文章校正等の支援
立教大学観光学部観光学科 【イベント・事業運営】	特徴: 地域内のインナープロモーション効果の創出を実現 効果: 2010年から地元の建物を拠点に、学生自らがカフェ運営に関与する活動が認められ、2011年に長野県下高井郡山ノ内町から補助金を受け活動を継続	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現地に運営拠点を構え、研究テーマを実際に実践し、観光地で学生が頑張る姿を見せ、地域住民に活力を創出 ✓ 学生視点を入れた地域の新たな魅力を発信するハブ拠点(機能)への成長

2) 大学の観光振興に寄与する知見等の整理

大学は、地域振興に寄与する取り組みを多様な講義を通して積極的に行っており、大学が有する観光資源を観光振興や地域振興における地域課題の解決にマッチングさせることで、本学の観光資源を活かし、地域全体の活性化繋がると考える。

既存の取組事例として、「よかわオープンイノベーションラボ」がある。山田錦まつりへの新提案や、吉川町商工会主催の「デリシャスよかわ」のイベント企画により、地域活性化に向けた活動と事業開発を実施している。都市住民である学生たちが地域を訪問する機会が増え、毎年新たな学生が地域と関わり、過疎地域に対する理解が深まっている。

2018年度は、吉川町商工会でのインターンシップとして、同じメンバーが10数回吉川町で活動し、吉川町商工会会員との密な関係性や地域理解を深め、当事者間で関係性が深まることで、長期継続的なつながり（関係人口創出）になっている。複数の関係者との多様性と、複数年にわたる継続性を特徴とした連携活動の事例である。

【これまでの実績】

- ・ 山田錦まつりの課題発見と報告
- ・ 吉川町での各種イベントに出店、地域活性化の企画運営
- ・ オープンキャンパス吉川 PR プロジェクト など

教授による知見や関連取り組みに関心の高い学生のマンパワーなどを活用することで、観光や地域振興への取り組み効果を更に高めることができると考えられる。

図表 29 大学が有する観光資源の整理

	観光資源分類	現在行われている大学の講義内容
1	コンテンツ開発	「アグリツーリズム、ヘリテージツーリズム（文化遺産・自然遺産を観光資源として利用）」を軸に、農家観光の構築 田園風景・農村地帯にある食と農資源の発掘と観光商品化 心と体の健康を目指す「ウェルネスツーリズム」企画、ネットワーク紹介（ヘルスツーリズム認証プログラム）
2	プロモーション	「観光地域づくり戦略研究（ふるさと誘客事業）」を軸に、地域シンボルや地域ブランドとなる新たな着地型観光ビジネス商品・サービスの創出 地域課題解決ワークショップ企画運営、イベント出店、魅力発信 PR 活動（よかわオープンイノベーションラボ）
3	マーケティング	「日本酒を日本の地域文化とした海外（特に韓国）での広報活動」を軸に、日本酒を活用した観光振興（アジア圏の顧客獲得）※外国人観光客誘致の新ビジネス創造
4	人材育成	オンラインでの社会人学び塾の開講運営（ひょうご観光塾）

3) 大学や三木市資源を活かした今後の取り組み検討

前述した観光資源の活用により、観光や地域振興への貢献が可能と考えられる。また、これらの資源は、他の取り組みである「防災資源を活かした地域防災力の向上」「スポーツによる地域の健康増進」「地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致」との連携により、地域振興の効果を高めることなどが可能と考えられる。

スポーツ合宿においては、ゴルフ、テニス、サッカーなどのスポーツのターゲットに合わせた市内の周遊プランの検討も可能と考えられる。例えば、他の事例や本学の資源などを踏まえ、若者向けのスポーツ合宿の企画のケースで考えると、本学の学生が若者目線から周遊時の訪問先の選定、SNS などのインターネット媒体を活用した PR、現地のツアーガイドを行うなども想定される。他にも、既存の取り組みである「ひょうご観光塾」とも一部連携しながら、廃校や遊休施設を地域観光のハブ拠点として活用し、ゴルフやスポーツを核とした着地型観光の創出による交流人口、関係人口の増加につながる可能性が想定できる。

防災スポーツにおいては、学生防災士関西一の実績を誇る「セーフティマネジメント」の知見と三木市の自治会単位での自主防災組織をもつ強みを組み合わせ、スポーツ要素を取り入れたチームビルディング形式で、リスク管理能力やコミュニティ防災力を高める合宿を企画運営し、新たなコミュニティ組成、困難を共に乗り越えていく学びの機会の創出などが想定できる。

健康増進においては、三木市の西日本一のゴルフ施設数に加え、市内には森林環境や温泉施設などもあり、これらの資源を活かした取り組みなども検討可能と考えられる。例えば、本学でも取り組み経験のあるウェルネスと、地域のゴルフ場、森林環境、温泉施設などの資源を組み合わせ、子どもから高齢者まで健康増進に取り組みやすいイベントの企画なども想定できる。また、これらの取り組みを拡大発展させる形の一つとして、ツーリズム化することで、市内のみならず、市外の訪問者増加に寄与することも将来的には可能になると考えられる。

観光振興においては、本学が三木の地域資源の磨き上げなど（超音波を活用したイチゴ栽培、農産物特産品づくり）に協力している事例もある。今後は、三木市のゴルフ、山田錦、金物、レクリエーション施設などの豊富な資源と本学の有するコンテンツ開発、プロモーション、マーケティング、人材育成などの知見を上手く紐づけることで、既存資源を活用した観光に関する企画や新たな地域資源の創出などに繋げていくことも想定される。また、将来的には、これらの資源を上手く活用したツーリズムの企画などを行うことで三木市への訪問者数の増加に加え、宿泊者数の増加にも寄与するなども想定される。

なお、上記の内容については次年度に関連取り組みを行う教授等への打診や三木市既存取り組みとの連携などを検討し、具体化を図り、トライアルイベントの開催などに繋げるものとする。

第3章. 事業の効果及び評価

1. 評価の方法

事業の目的である『我が国の大学スポーツの持つ潜在力（人材輩出、経済活性化、地域貢献等）を活かして、地域における経済・社会の活性化、スポーツを通じた健康増進、スポーツのための環境整備等に貢献するとともに、それらの取組を収益事業化・自走化することで大学の財政基盤の安定化を図る』を実現するために、本学の特徴や強みを活かし、『スポーツと防災、安全安心教育を通じて、SDGs と地域活性化を目指す』方針を掲げて、取り組むこととした。

それらを踏まえ、事業の趣旨・目的を達成するための実施事項に設定した3つの取組みについて評価項目を設定し、達成状況の確認を行うこととする。

図表 30 評価項目一覧

内容		評価項目	
1	スポーツアドミニストレーターの設置	A	スポーツアドミニストレーターの配置およびそのサポート体制確保の完了している
2	コンソーシアムの組成	B	三木市や本学と連結支援協定を結んでいる団体や企業を中心としたメンバーによるコンソーシアムが形成されている
3	地域活性化策の検討	C	学内のリソース（安全安心教育コンテンツ等）の整理・体系化を終えている
		D	防災スポーツおよびスポーツ合宿等、今後の地域活性化に関する事業化可能性調査を実施している
		E	今後の方向性を策定し、コンソーシアム内にて合意形成を完了している
		F	WMG・CCRCに関するまたは類する連携手法の検討を終え、コンソーシアム内にて、合意形成を完了している

2. 評価結果

本事業の推進を本学内や関係機関と協力し、連携調整を図りながら、「スポーツアドミニストレーターの設置」、「コンソーシアム形成」、「地域委活性化策の検討」を本学から三木市と協議を重ね、地域の実態を踏まえた上で、大学スポーツ資源を活用した地域活性化に繋がる検討を進めてきた。これらの取り組みを踏まえ、設定した実施事項ごとの評価の結果、今年度事業の取組はおおむね達成できたと言える。

Fについては、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止などの観点から WMG は開催延期となり、CCRC との連携は、今年度は見送ることとした。一方で、代替の取り組みとして、次年度に向けて地域資源や大学資源を活用した健康増進イベント案や地域住民向けの公開授業の実施を行ったため、一部達成との位置づけとした。

図表 31 今年度事業の評価の結果

評価項目	評価結果	
A	<ul style="list-style-type: none"> SA に地域知名度の高い山野司氏（野球部副部長コーチ）が就任 アシスタント SA を 1 名設置 	達成
B	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化に向けて連携が必要な団体に協力打診を行い、コンソーシアムを形成し、第一回会議を開催 	達成
C	<ul style="list-style-type: none"> 学内のスポーツ分野の統括業務を担う組織として「スポーツ振興・地域活性化推進センター」を設置し、リソース整理や体系化を実施 	達成
D	<ul style="list-style-type: none"> 防災スポーツ関連の優良企業へのヒアリング調査及び事業拡大発展の可能性検討を実施 	達成
E	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアム構想立案に関する資料を作成 令和 3 年 1 月 27 日に第 1 回コンソーシアム会議を開催 	達成
F	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大等の影響から WMG・CCRC との今年度の連携検討は見送り（WMG・CCRC との連携合意形成はコロナが落ち着いた時期に実施予定） コンソーシアムで提供可能な健康増進イベントの企画を検討 地域住民等が参加可能な大学公開講座の開催（共催：三木市、大学、協力：ゴルフ協会） 	一部達成

第4章. 次年度の取り組み想定

1. 防災資源を活かした地域防災力の向上

防災に関する取り組みについては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえつつ、今年度
に開催に向けた詳細まで検討をすすめたトライアルイベントの開催を予定する。

トライアルイベントの開催に向けては、今年度作成したイベント案を元にコンソーシアムメン
バーとの意見交換を行い、ブラッシュアップに努めるものとする。

また、三木市では、例年、市や市の消防本部などが主催している防災フェスティバルを開催し
ている。住民に対して様々なプログラムを用意し、防災体験をして頂くなどの内容で、本コンソ
ーシアムの取り組みや活動を知って頂く良い機会であるため、連携が可能であるかなどの打診
なども想定する。

2. スポーツによる地域の健康増進

今年度は、三木市や本学の資源を活用して開催が可能と考えられるイベントを検討した。次年
度については、本学のスポーツや健康の知見を有する教授や学生などとの連携なども視野に入
れた具体案の検討や、イベントの開催などを予定する。

イベント開催においては、三木市が既に取り組んでいる健康増進の活動と紐づけて、健康に関
する講座や実技教室などの開催に繋げるなどが考えられる。

また、今年度、三木市や三木市ゴルフ協会との連携により開催した「生涯スポーツⅠ（ゴルフ
実技）」については、今年度構築した関係者へのリレーションなどを活かし、次年度の継続開催
などに繋げることを想定する。

3. 地域のスポーツ・観光資源を活かした合宿誘致

合宿誘致では、本学の強化指定クラブである野球、サッカー、テニスなどの本学のリレーショ
ンを活用し、誘致に向けた大会や教室開催などの取り組みが可能であるかなど、各クラブとの
連携方法を模索することとする。ゴルフについては、三木市に豊富な資源があり、今年度からは
春高・春中ゴルフの開催地に決定している。練習ラウンド等で多くの学生に加え、学生の保護者
等も訪問するなどが想定されるため、保護者や学生向けの市内周遊プラン企画などでの連携が
可能であるかなどの検討を進める。

また、他大学の中には、子供向けのスポーツ教室の開催などにより、地域のスポーツ振興を進
めつつ、自走に向けた収益獲得などに取り組んでいる事例もあり、合宿の誘致だけではなく地
域でのスポーツの取り組みについても調査し、トライアル的に実施するなど、再来年の活動
の足掛かりとすることを想定する。

4. 三木市の資源を活かした観光振興

本学には、多様な切り口で観光振興などのテーマに取り組む教授が複数人在籍している。三木市も酒米、金物、自然体験可能なレクリエーション施設など多様な観光資源が充実しており、地域資源を活用した訪問者増加への潜在力は高いと考えられる。次年度は本学の知見を活かし、これらの三木市の資源を、上記に示した3つの取り組みとの連携について検討する。

また、1年延長となり再来年度の開催が予定されている WMG において、連携の打診を行い、学生ボランティアによる海外からの訪問者の案内などの協力が可能であるかについて検討を行うこととする。